

No.29-14 平成 29 年 10 月 25 日	<h1>漁況情報・浜の話題</h1>	神奈川県水産技術センター 企画資源部 046-882-2489 相模湾試験場 0465-23-8531
-------------------------------	--------------------	---

● 浜 の 話 題

- 10月2日、大磯二宮漁協所属（有）湘南定置で、地付きの黄アジを「大磯の金アジ」としてブランド化するために金アジの撮影を実施しました。先行の二宮漁場、平塚漁場と同様に、大磯の湘南定置でも金アジの漁獲が多く、瀬の海の近くにある湘南定置の立地特性や、金アジと黒アジの形態的相違等を掲載したPRパンフレットを作成し、今後、（有）湘南定置でも「大磯の金アジ」としてブランド化を図って行くそうです。



大磯の金アジ



脂がのった金アジの切り身

- 10月3日及び12日、ワカメ種系を生産している長井町漁協所属の漁業者を訪ね、ワカメ種系の状況を顕微鏡で確認しました。それぞれ順調な生育が確認でき、仮沖出しへ向けた最終段階となりました。各漁業者は天候や海況に合わせて、近日中に仮沖出しを実施するとのことでした。
- 10月6日、大磯二宮漁協に大磯中学校の生徒14名が体験学習に訪れ、同漁協の森谷事務長から定置網漁や定置網でたくさん獲れる魚について説明がありました。参加した中学生の中には、漁業就業に興味を抱く生徒もいて、「どうすれば漁師になれますか?」といった質問もあったそうです。
- 10月8日、腰越漁港にて「腰越漁協みなとまつり」が開催され、多くの来場者が訪れました。来場者数は約7,200名で、前年よりも1割程度増加したそうです。浜汁の無料配布が行われ、名物の朝どれフライや鮮魚の販売には長い行列ができたそうです。また、釣り船体験や漁船での腰越・鎌倉クルーズの人気も高かったそうです。
- 10月10日、真鶴町の岩漁協では今秋から藻場造成の取組みを始めています。最近では真鶴周辺でもアイゴによる食害等でカジメが減少しており、藻場減少対策の一環として取組みを行うこととしました。当日は成熟したカジメの目安となる、子嚢斑の出た母藻を岩漁協の漁業者と試験場職員で採集を行い、採集したカジメを袋詰めして藻場が減少した場所に設置しました。今後、カジメから遊走子が出て、来年以降カジメが自生することが期待されます。



子囊斑の出たカジメの採集

カジメ袋の設置作業

○ 10月11日、江の島片瀬漁協北村組合長、浜野副組合長、榎本出荷部長は、定置網で獲れるアカカマスを「江の島カマス」としてブランド化するため、かながわブランド審査会に出席し、「江の島カマス」のこだわりや出荷体制等について説明しました。当日は、同漁協が用意した「江の島カマス」のお造りや寿司等の食味審査を交えて厳正な審査が行われ、定置網で獲れる鮮魚としては初めて、「かながわブランド」に登録されました。参加した漁業者は「かながわブランド」のブランド力を活かして、湘南しらすに次ぐ新たな江の島の名産品として、消費拡大に繋がりたいと張り切っています。



かながわブランド審査会の様子



審査会に用意した「江の島カマス」の鮮魚、お造りと寿司

○ 10月11日、横須賀市東部漁協走水支所の長塚良治さん、長塚勝弥さん、萩原主任は、かながわブランド審査会に出席し、「走水あさり」の特徴、質について説明を行いました。審査では高い評価が得られ、「かながわブランド」に登録されました。漁協の皆さんは、美味しい

「走水あさり」を広く県民に知っていただく機会ができたと喜んでいました。

- 10月12日、小田原市産地協議会は、小田原新港の荷さばき施設内で来年度から本格稼働予定の活魚水槽で蓄養試験を実施しています。7月に実施したサザエに続き、10月はイセエビの蓄養試験を実施しました。蓄養試験は水質と斃死率の観察の他に、触角と脚の脱落が少ない蓄養方法の検討を行い、得られたデータからイセエビの蓄養マニュアルを作成する予定です。



活魚水槽でのイセエビ蓄養



蓄養後のイセエビ測定

- 10月13日、浦賀港において、東京湾南部事業団と横須賀市東部漁協及び（公財）神奈川県栽培漁業協会により、カワハギ種苗が放流されました（1万1千尾、4センチ）。そのうちの150尾には標識をつけて放流しました（アンカータグ黄）。これまでも標識魚の再捕があり、この放流群も再捕されるか楽しみです。